

製品名: C/EBP γ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07707**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	CEBPG
別名	CEBPG; CCAAT/enhancer-binding protein gamma; C/EBP gamma
遺伝子 ID	1054.0
SwissProt ID	P53567
免疫原	抗血清はヒト CEBPG 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 31-80

背景

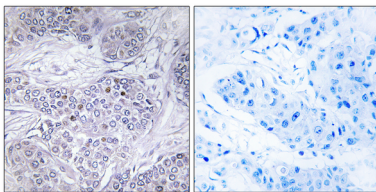
C/EBP ファミリーの転写因子は、ウイルスおよび細胞の CCAAT/エンハンサーエレメントを介した転写を制御します。C/EBP タンパク質には bZIP 領域が含まれており、この領域はタンパク質の C 末端側に 2 つのモチーフ（DNA 結合に関与する基本領域と二量体形

成に關与するロイシンジッパーモチーフ) を持つという特徴があります。C/EBP ファミリーは、C/EBP アルファ、C/EBP ベータ、C/EBP ガンマ、C/EBP デルタといった関連タンパク質から構成され、これらは互いにホモ二量体およびヘテロ二量体を形成します。CCAAT/エンハンサー結合タンパク質ガンマは、Fos と共働して PRE-I エンハンサーエレメントに結合すると考えられます。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2011 年 11 月]、機能: IL-4 遺伝子のエンハンサーエレメント PRE-I (正の調節エレメント-I) に結合する転写因子。他の転写因子の DNA 結合特異性を変化させ、それらを通常とは異なる DNA 部位にリクルートする可能性がある。、類似性: bZIP ファミリーに属し、C/EBP サブファミリーに属する。、類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。、サブユニット: DNA に二量体として結合し、C/EBP アルファおよびベータ、そして Fos タンパク質と安定したヘテロ二量体を形成することができる。、

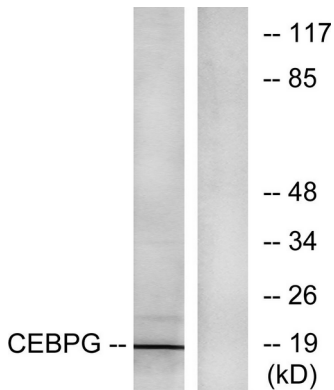
研究分野

-

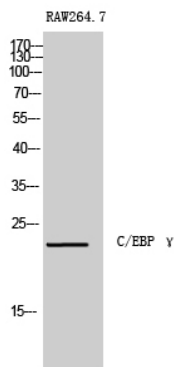
画像データ



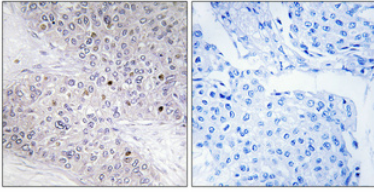
CEBPG 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



CEBPG 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



C/EBP γ ポリクローナル抗体を使用した RAW264.7 細胞のウェスタン ブロット解析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。